

監 査 報 告 書

令和 元 年 5 月 30 日

公益財団法人大阪府私学総連合会
理 事 会 御 中

公益財団法人大阪私学総連合会

監事

高 橋 道 子



監事

内 藤 芳 雄



監事

釜 谷 等



印

私ども 3 名は、平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの事業年度について、下記のとおり監事監査を実施したので報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

(1) 会計監査について

会計監査人から監査報告を受け、財務諸表及び附属明細書並びに財団目録（以下「財務諸表」等という。）の適正性を検討した。

(2) 業務監査について

理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務状況を監査した。

2 監査の結果

(1) 会計監査人の監査の方法及び結果は相当であり、財務諸表等の適正性について、とくに問題となる事項は認められなかった。

(2) 会計監査人の職務の遂行が適正に実施されることを確保するための体制については、会計監査人よりの通知のとおり適切であると認める。

(3) 事業報告書の内容については、特に問題となる事項は認められなかった。

(4) 理事の業務執行に関する不正行為又は法令もしくは定款に違反する重大な過失は認められなかった。

独立監査人の監査報告書

令和元年 5 月 30 日

公益財団法人大阪府私学総連合会

理事長 野田 賢治 殿

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士

谷口悦子 

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士

池田剛士 

<財務諸表監査>

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき、公益財団法人大阪府私学総連合会の平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの平成 30 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－5（1）の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びにキャッシュ・フロー計算書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき、公益財団法人大阪府私学総連合会の平成 31 年 3 月 31 日現在の平成 30 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。